

病院情報

病床数	402床	臨床研修医数	17名	新規入院患者数	7,284人
※たすき掛け研修医含む／2026年4月時点					
病床稼働率	84%	外来患者数	98,832人	救急車搬入数	3,494台
標ぼう診療科数	32	手術件数	2047件	救急車応需率	96.3%



継続的に地域に 貢献できる 医師を育てる

有明医療圏・県北地域の中核病院として

一次・二次救急を担う当院。

地域だからこそ経験できる症例数と、

主治医として主体的に関わる診療があります。

患者さんにとって目の前の医師は

専門科ではなく、「医師」です。

地域に必要とされる医師へ。

その一步を、ここから。

病院見学について

8:15-

病院集合

総合受付をお訪ね下さい。
前日からの宿泊も可能ですのでお気軽にお問合せ下さい。

8:30-

希望の診療科での見学開始

実際の診療現場に参加して頂きます。
外科系は手術への参加も可能です。

12:00-

昼食休憩

研修医室で休憩をとりつつ所属研修医たちからアドバイスを受たり
情報収集ができます。

14:00-

午後の見学

17:00-

準夜勤見学(希望者のみ:17:00～23:00)

救急車が来ると救急病院の緊張感、やりがい
リアルに感じることが出来ます。

※上記は見学スケジュールの一例です。さまざまなニーズに合わせたスケジュールを組むことが可能ですので、
まずはお気軽にお問い合わせください。

臨床研修・病院見学のお問い合わせ、応募書類の提出先はこちら

〒865-0005 熊本県玉名市玉名550番地

地方独立行政法人くまもと県北病院 人事課 臨床研修事務 宛

TEL:0968-79-7323(直通) FAX:0968-73-2867(代表)

Email:kensyu@kumakenhoku-hp.jp

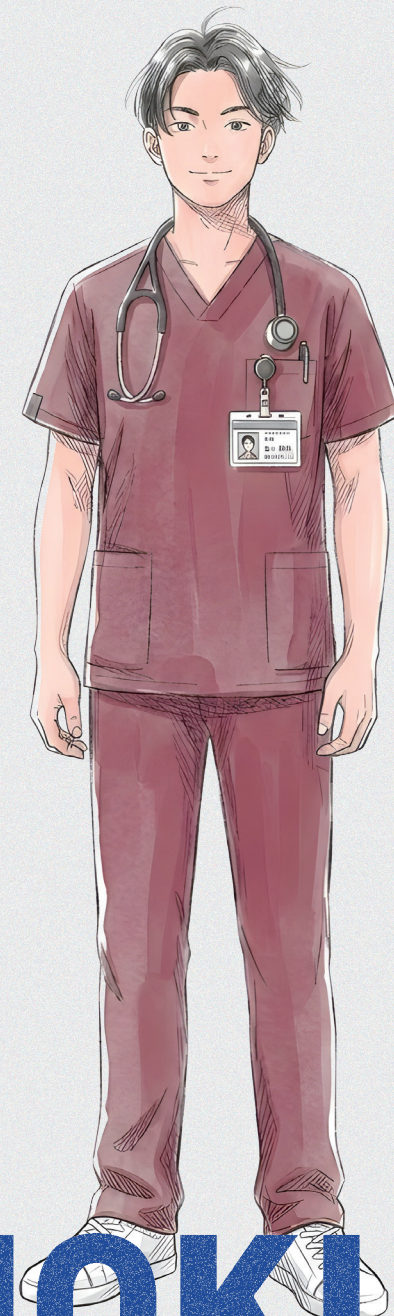
病院HP



研修医室
Instagram



1年目から、主治医になる。
そのそばには、いつも指導医。



くまもと県北病院
臨床研修医募集
KENHOKU
RESIDENT 2027

5人が語る、 県北で学ぶ2年間。

熱心な指導。 幅広い選択肢と、

当院は総合診療科や救急科をはじめとして、様々な診療科で主体性を持って学ぶことができます。研修医 1年目は分からないことばかりでしたが、上級医を始め、様々な職種の方が研修医を気にかけてくださり、採血やエコーなど基礎的な手技から優しく丁寧に教えてくださいます。研修医室も充実していて、豊富な医学書や自由に使えるカルテがあります。研修医間で症例や知識を共有することで、理解を深めたりお互いの刺激にもなります。医局とは別の空間でリラックスもできるため、学年関係なく研修医同士の仲も深まり、研修にもメリハリがつくため、充実した研修医生活を送ることができます。とても恵まれた環境で、医師として最初の一步を踏み出すのに良い病院だと思います。



熊本大学 2025年卒
志望科：麻酔科、外科
趣味：編み物

内科系に即した診療科で 幅広い症例を経験

研修プログラムは、他病院と同じように必修ローテートと選択ローテートで構成されており、ほとんどは4週間ごとに診療科をローテートします。当院の研修プログラムの一番の特徴としては、内科系の診療科に総合診療科が必修で組み込まれており、8週間研修することです。総合診療科では、複数の病態があるといった背景が複雑な患者など、他の診療科で診療しにくい症例や複数の診療科でのフォローが必要な患者の入院が多くあります。研修医は、指導医のバックアップの元に主治医として、ファーストタッチから検査、IC、各種手続き、治療、退院と

一連の業務を行います。様々な病態の経過だけではなく、家族背景なども考慮し、他職種との連携を介した治療や退院後のフォローなども行うため、一内科医としての臨床力に加え、コミュニケーション能力や患者背景に即した対応を学ぶことができます。まだ診療科が決まっていない方はもちろん、すでに志望する診療科が決まっている方も初期研修の場で総合診療科をローテーションすることは今後の診療に活かせると思います。



熊本大学 2024年卒
志望科：総合診療科、小児科、整形外科、泌尿器科など
趣味：料理、お酒、食べ歩き



宮崎大学 2025年卒
志望科：麻酔科、外科
趣味：海釣り、カフェ巡り、ドライブ

1年目で力をつけて、 2年目で未来を選ぶ。

1年目に内科メインで研修を行い、数カ月間その他診療科で研修していき、2年目からは外病院で地域医療や精神科、産婦人科での研修を行いつつ、9ヶ月間の自由選択可能な期間で自分の興味のある診療科での研修を行っていきます。1年目に内科メインで研修を行うことで、業務を覚えつつ基本的な病棟管理を学ぶことができます。特に総合診療科では、指導医のサポートを受けながら主治医として入院から退院まで全てを自分で行うので、業務処理能力や全身管理の力、考え方を養うことができます。また内科以外に消化器外科や小児科、救急科などの

研修を通じて医師として必要な全体的に診療できる力をつけていけます。2年目の必修診療科以外の期間は、自分の興味のある診療科を自由に選択して研修できるので、志望診療科が決まっている方でも迷っている方でも自分の将来の選択肢にあわせて研修を進めていけます。私は内科か外科かも志望科が決まっていませんでしたが、1年目のうちに力をつけてから様々な診療科で研修したことで、イメージだけでなく実際に働いてみてどうかという視点で将来の選択について深く考えることができました。

地域の 最前線で学ぶ、 全人的な医療。

当院のプログラムは内科・外科・救急等の必修領域を1年次に研修し、2年次に残りの必修と選択科を自由にローテートすることができます。また、当院は熊本県北部地域の医療を担っているため、多様な症例の経験が可能です。さらに総合診療科研修に力を入れており、全人的な医療の実践を学ぶことができます。科ごとに多少の差はあれど、密度の高い学びの機会が得られまし、自己学習のための時間もしっかり確保できるので、2年間の研修で求められる十分なスキルを身につけることが可能です。志望科の如何に拘わらず、充実した2年間を過ごしたい方にオススメです。



山口大学 2024年卒
志望科：小児科
趣味：映画鑑賞

安心して学べる。 それが一番の印象です。

必修は内科を24週間、救急科を12週間、外科を4週間、小児科を4週間、産婦人科を4週間、精神科を4週間、地域研修を4週間、一般外来を4週間となっております。そしてそれ以外の期間は選択となります。1年次のローテートはおおむね決まっており、2年次のローテートは基本的には自分で考えることになります。1年次の間に必修の内、内科の24週間、外科の4週間、小児科の4週間、救急の8週間を院内でまわります。残りの必修は2年次でまわります。内科の24週間のうち8週間は必ず総合診療科をまわるのが特徴だと思います。

2年次の選択では外病院も選択できたり、1年次にまわった科を再度回れたりできます。実際にローテートして感じたのは、基本的に一つの科を1人で回るので、指導医の先生だけでなく、その科の先生全員でしっかり指導してくださり、安心して学べる印象があります。僕自身は元々形成外科が一番興味があり、それ自体は変わりないですが、他の科でも興味が持てるようなことはありました。決まっている方は選択でより学びたいところを選ぶこと、まよっている方は研修をしながら先生方話をきいたり相談できることがメリットだと思います。



金沢医科大学 2024年卒
志望科：形成外科、皮膚科
趣味：温泉

2年間の研修プログラム

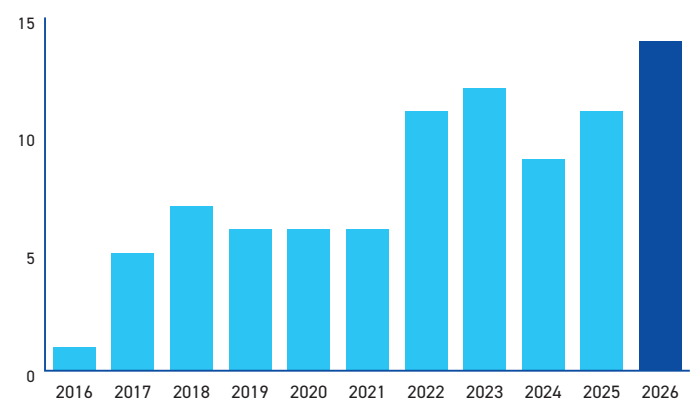
1年目で診療の土台を築き、
2年目は約8か月の選択研修で将来の進路を見つけていきます。

1年次	2年次	選択科目
内科 24週 総合診療科(原則8週)／呼吸器内科 循環器内科／消化器内科／腎臓内科 糖尿病・内分泌内科／血液内科	産婦人科 4週	
外科 4週	精神科 4週	
小児科 4週	地域医療 4週	
	救急科 12週	
※1年次:8週／2年次:4週		麻酔科／呼吸器外科／皮膚科 整形外科／泌尿器科／放射線科 その他、上に明記されていない協力病院・施設での研修も全て選択研修としてなる。

研修医の出身大学

熊本大学	20名	久留米大学	1名
産業医科大学	5名	近畿大学	1名
宮崎大学	3名	金沢医科大学	1名
山口大学	2名	香川大学	1名
九州大学	2名	鹿児島大学	1名
岡山大学	1名	島根大学	1名

基幹型研修医数の推移



県北病院の研修が選ばれる3つの理由

01

主体的に診療できる環境

地域医療の最前線だからこそ、幅広い症例を経験。主治医として患者さんに関わりながら、診療の責任とやりがいを実感できます。

02

地域医療を丸ごと学べる

外来・病棟・救急に加え、在宅や地域連携まで。患者さんの暮らしまで見据えた診療を学べます。

03

相談しやすい指導体制

指導医との距離が近く、日々の診療と一緒に振り返れる環境。一人で悩まず、確実にステップアップできます。

診療科別指導医数

総合診療科 3名	糖尿病・内分泌内科 1名	消化器外科 3名	麻酔科 1名
呼吸器内科 2名	腎臓内科 1名	整形外科 2名	救急科 1名
消化器内科 1名	脳神経内科 1名	泌尿器科 1名	放射線科 1名
循環器内科 2名	小児科 1名	皮膚科 1名	病理診断科 1名

協力型臨床研修病院

熊本大学病院／和水町立病院／熊本赤十字病院／熊本医療センター／熊本中央病院／済生会熊本病院／荒尾市立有明医療センター／熊本市民病院／熊本労災病院／神戸大学医学部附属病院

臨床研修協力施設

御所浦診療所／上天草総合病院／福田病院／春日クリニック／熊本機能病院／荒尾こころの郷病院／向陽台病院／安成医院／玉名病院／松本内科・眼科

1DAY SCHEDULE

救急科研修医の1日

8:15

出勤

8:30

業務開始

救急搬送患者対応・Walk-in患者対応・カルテ記載 など

上級医・指導医の指導のもと、研修医が主体となって救急搬送患者・Walk-in患者の初期対応を行います。

また、業務の合間に上級医とディスカッションも行います。

12:00

昼食・休憩

救急科では緊急の対応もあるため、患者さん対応が落ち着いた時に適宜休憩をとっています。

16:45

業務引き継ぎ

当直者へ日勤帶來院患者の経過や対応などについて、申し送ります。

17:15

退勤



救急科部長
南田 立憲

最前線で学ぶ。最前線で育つ。

救急の現場には、毎日たくさんの学びがあります。当院では救急専門医が中心となり、初療からその後の対応まで、一貫して丁寧に指導しています。診察の進め方、緊急度の判断、臨床推論。救急に必要な力を、実践の中で着実に身につけられる環境です。「救急を本気で学びたい」「幅広く経験を積みたい」「まだ将来は決まっていなくても、しっかり学びたい」そんな皆さんを全力でサポートします。ぜひ当院で、一緒に救急医療を学びましょう。

Q. 夜間の研修はありますか？

A. 深夜帯の割り振りは原則ありません。

どの科をローテ中も、月に2～3回「準夜研修(23時まで)」に入り、救急症例を経験します。朝から夜までタフな1日になりますが、「深夜の呼び出しに怯えることなく、翌日の研修に備えられる」のが当院流のオンオフ。もっと深く学びたい方は、深夜帯の希望も可能です！

学びを支える人と場



実践で学ぶ、救急の現場
すぐそばに、教えてくれる先輩がいる。



地域の先生によるモーニングレクチャー
県北には、育てる文化がある。
ゲームを通じたチームワークと
信頼関係の学び



一人でできるまで、
採血実習



学びの場は、海外にも。
タイのメーファールアン大学で学ぶ選択肢



見るだけで終わらせない、
ハンズオンレクチャー

迷ったからこそ、 ここを選んだ 理由がある。

研修先を選ぶとき、誰もが悩みます。
実際にくまもと県北病院で研修している
4人に、迷ったポイントや日々のリアルを
率直に話してもらいました。

ぶっちゃけ、 他院と迷ったポイントは？

研修医A: 私は小児科志望なので、NICUがある病院とも迷いました。

研修医D: 専門が決まっていると、その辺は結構悩みますよね。

研修医A: そうなんです。でも研修医の間は、まず幅広い診療科でcommonな症例を経験して、医師としての基礎を作りたいと思って県北にしました。

研修医B: 僕は全然違って、立地でしたね(笑)。海釣りが趣味なので、気軽に釣りに行ける場所かどうかは結構大事でした。

研修医C: それ大事ですよ。仕事だけじゃなくて、生活しやすさもあります

研修医B: そうなんです。いろいろ比べましたが、最終的には総合点で県北が良かったです。



まずは**common**を
広く経験したい

思ったより
自分時間あります

海釣りできるか
結構大事(笑)

困った時は、
ちゃんと誰かが
支えてくれる。

RESIDENT TALK!!!!

想像していた「理想」と 「現実」のギャップは？

研修医A: もっとアクティブに過ごすと
してたんですけど、実際は帰ったら結構
ゆっくりしてます(笑)。週末も家で休
んでることが多いですね。

研修医B: あー、それはありますね。も
っと忙しくて余裕がないと思ってまし
た。

研修医D: わかります。休みも少ない
のかになって思っていましたよね。

研修医B: でも実際は、自分の好きな
ことをする時間もあります。思ったより
ちゃんと生活できます。

研修医C: そうですね。自分も思った
より時間が取れて驚きました。研修医
としてはかなり恵まれている環境だ
と思います。

研修医A: 勉強もしたいし遊びにも
行きたいって思ってたんですけど、ま
ずはしっかり休むことが大事って感
じですね(笑)。

研修医D: 研修プログラムにもゆとり
がありますよね。忙しい診療科を回っ
ていても、ある程度余裕を持って取
り組めます。



指導医が忙しそうで 話しかけづらいとき、どうしてる？

研修医B: タイミングを見ますね。ひと
まず自分の仕事をやりつつ逐一指導
医の状況をチェックしながら話そう
なときに一気に話します！

研修医C: 少し時間を空けることもあ
りますけど、緊急時など必要ときは
その場で聞いてます。



休日に病院から着信に ビクッとするこ とありますか？

研修医A: 総合診療科と循環器内科
のときはちょっと緊張してましたね。
担当患者さんに関する電話やオン
コールがあるため、ローテ期間中は
ドキドキでうまく眠れませんでした(笑)

研修医B: わかります。オンコール
の日はやっぱり気になりますよね。

先輩研修医からの メッセージ



私の記憶では、一度見学に来るとほぼ全員「いい病院かも」という印象を持ってくれます。くまもと県北病院は、その名の通り熊本県の県北エリアに位置しており、地域完結の医療を目指しています。しかし現実には熊本市内の高次機関に搬送するケースも少なくありません。研修を通じて自然と病院機能を意識したトリアージ力が養われます。他にも総合診療科研修や東南アジア・タイの協力大学との交換留学など他にはないプログラムも魅力的です。ぜひ一度玉名に遊びに来て、病院見学と同時に玉名温泉や玉名ラーメンなど楽しんでほしいです。皆さんをお待ちしています。

入職前の自分に教えたい 大切な2年間、くまもと県北病院を 120%使い倒すコツ

研修医A: 先生はもちろん、働いている皆さんが優しいので、遠慮せず聞くことが大事だと思います。

研修医B: ですね。あと、色んな部署の方々に話しかけて仲良くなると、とても仕事がしやすくなります！サークルに参加したりプライベートでも関わると尚良し！

研修医C: 当直も希望すれば増やせるので、やる気次第でしっかり経験積めます。

研修医A: 私は、他の先生や先輩に聞くことも多いですね。

研修医B: あ、それ大事ですよ。

研修医D: 忙しい中でも、基本的には指導医の先生が丁寧に対応してくださるので、とくに困ったことはなく、いつでも聞きやすい関係性です。



研修医A: 総合診療科と循環器内科のときはちょっと緊張してましたね。担当患者さんに関する電話やオンコールがあるため、ローテ期間中はドキドキでうまく眠れませんでした(笑)

研修医B: わかります。オンコールの日はやっぱり気になりますよね。

研修医C: 自分はそこまで多くはないですけど、科によるなって感じはあります。あるとしても特定の診療科だけなので心の準備はできています。

研修医D: 全くネガティブな気持ちにならないと言えば、正直嘘になってしまいますが、それでもひとりの医師としての自覚を持ち、対応していました。